

平成22年度研究開発成果概要書  
「革新的な三次元映像技術による超臨場感  
コミュニケーション技術の研究開発」

(1) 研究の目的

人間の空間認知メカニズムに基づき、実在感、臨場感という感性情報を十分伝達できる立体表示方式の開発に必要な、脈波、脳計測などの客観的計測に基づく臨場感計測技術の確立を目的とする。

(2) 研究期間

平成21年度から平成23年度（3年間）

(3) 委託先企業

シャープ（株）

(4) 研究予算（百万円）

平成21年度	9.9
平成22年度	9.3
平成23年度	8.8

(5) 研究開発課題と担当

課題工： 感性情報認知・伝達技術

(6) これまでの主な研究成果

特許出願（国内）：（全体）3件、（平成22年度）2件

平成22年度の具体的な成果

- (1) 想定される感性情報伝達に係る各要因（輝度、コントラストの2種）別に、各要因の強度を変化させた映像を制作した。
- (2) (1)の映像を用いて、被験者10名による生体作用評価実験を実施し、主観評価と、脈波による客観評価の両方を行った。
- (3) (2)の実験から、統計的に有意な変化をする生理指標を得た。